

# 武蔵野書院

中古文学会会員様向け特設サイト  
2023年10月1日～10月31日

このサイトからのご注文に限り書籍を、  
**学会割引（税込み定価の2割引）＋送料無料**  
にてご注文いただけます

## ご注文方法

1. **A** 書籍名をクリックする。**B** 書籍QRコードを読み取る。  
**C** 最後のページの注文書で、FAXやメール等で注文する。  
**A～C** のいずれかの方法でご注文ください。
2. **A・B** でご注文の際は中古文学会会員である旨を明記ください。

## お支払方法

1. ご注文いただいた書籍をお送りする際に同梱する、郵便振込用紙にてお支払ください（振込手数料ご負担ください）。銀行振込でも承りますが、その際も振込手数料をご負担いただきます。
2. 公費注文の場合、宛名・日付の有無・納品 / 見積 / 請求書の枚数をお知らせください。

\*\*\*\*\*ご注文・お問い合わせ先\*\*\*\*\*

武蔵野書院

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-11

TEL 03-3291-4859 FAX 03-3291-4839

e-mail : info@musashinosho.in.co.jp

\*\*\*\*\*

**最新刊**河添房江  
松本 大 編

## 源氏物語を読むための25章

『源氏物語』をより専門的に読んでみたいと思う大学生・大学院生や中高の教員、一般の方々に向けて、研究のおもしろさを伝える。一つの巻を中心にテーマ別に論じたものを巻順に並べた25章（桐壺巻～浮舟巻）からなる『源氏物語』研究ガイドブック！

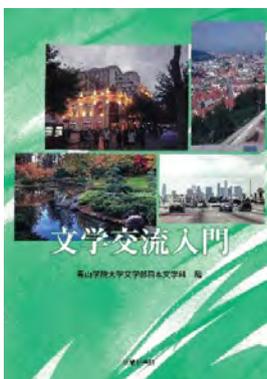
定価：本体2,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 332頁  
刊行日：2023年10月1日 ISBN：978-4-8386-1009-9**最新刊**

廣田 收 著

## 紫式部は誰か

『紫式部は誰か』って、書名として奇妙だと思われませんか？

この問いに正面きって答えようとする、なかなか難しいものがあります。確かに紫式部は平安時代に生きた人ですが、いくら歴史的資料を探しても、本当のところどんな人だったのかはよくわかっていません。いっぽう、文学の側からみると、彼女はまちがいない『源氏物語』『紫式部日記』『紫式部集』の中に居る、ということが本書の出発点です。これらの作品はそれぞれ随分と性格が異なりますが、切り口を工夫して読んでみれば、実はその根底で繋がっていることが確かめられます。彼女が遺した作品の中に潜む「紫式部は誰か」という問いについて、本書を手がかりにして、一緒に考えてみませんか？〔著者識〕

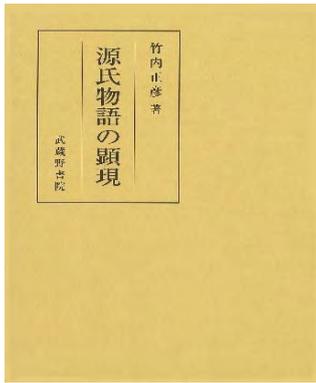
定価：本体2,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 284頁  
刊行日：2023年7月20日 ISBN：978-4-8386-1008-2**最新刊**青山学院大学  
文学部日本文学科 編

## 文学交流入門

### 〈文学交流〉とは

この本では、「文学交流」を「異文化に立脚した文学相互の〈双方向〉的交流」と定義し、一つの研究分野として、幅広い時間・空間の中で、さまざまな角度から、かつ体系的に考察します。このような意味での「文学交流」を、この本では〈文学交流〉と表記します。そして、〈文学交流〉の研究は、文学を通じて、異文化間の〈相互理解〉（“相互誤解”も含めて）が、過去から現在まで、また広い地域間でどのように行われてきたかを解明し、未来の〈相互理解〉に貢献することをめざします。

定価：本体1,500円＋税 判型：A4判並製 128頁  
刊行日：2023年9月1日 ISBN：978-4-8386-0659-7



新刊

竹内正彦 著

源氏物語の顕現

『源氏物語』という緻密に織りあげられた表現世界。  
その世界は、読むという行為によって顕現してくる。

本書は『源氏物語』における表現世界の究明をめざした。光源氏とは何か。光源氏をめぐる物語とはいかなるものなのか。彼が歩んできたその踏み跡をたどりつつ、いまここに生き生きと顕ち現れてくる物語の動的な様相を論じる。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製函入 530頁  
刊行日：2022年12月16日 ISBN：978-4-8386-0771-6



新刊

勝亦志織 著

平安朝文学における語りと書記  
—歌物語・うつほ物語・枕草子から—

十世紀文学における「語り」と「書記」の問題について

本書は、『伊勢物語』『大和物語』『うつほ物語』『枕草子』という十世紀に成立基盤を持つ文学作品を対象としている。理由は二つある。一つは文学史的にはバラバラなジャンルに位置付けられた作品であるがゆえに見過ごされてきた関係性を見直すため。もう一つは日本古典の最高傑作とされる『源氏物語』よりも前に成立した作品の意義を見直すことで『源氏物語』もまた数々の先行作品の蓄積のもとで成立したことを改めて見直したい、ということである。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 276頁  
刊行日：2023年3月3日 ISBN：978-4-8386-0776-1



新刊

後藤幸良 著

伊勢物語と四季

四季の扉の向こうに広がる、伊勢物語の新たな相貌

平安時代、竹取物語から源氏物語・狭衣物語へと続く物語史において、四季は飛躍的に重要性を増していった。その中間部の伊勢物語では、四季はどのような意義を発揮しているのか。伊勢物語は、古今集に代表される四季観を踏まえつつも、それを特有な形で継承することによって、四季の物語を成り立たせている。和歌集・漢詩文集などの四季観を要所に導入して個々の四季物語が実現し、そしてそれをテコとして伊勢物語の世界全体が、かけがえなく支えられていく。本書ではその様相が、春夏秋冬の各領域において明確に提示されている。

定価：本体9,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 286頁  
刊行日：2023年2月7日 ISBN：978-4-8386-0773-0



新刊

原 國人 著

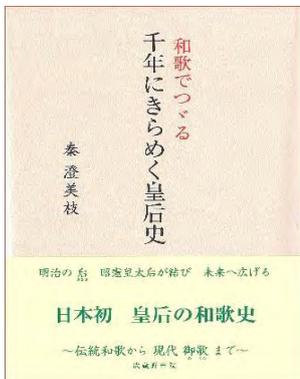
## 国語教材を塾く

—『ごん狐』から『舞姫』まで

先生！教科書の読み、それで大丈夫ですか？

『ごん狐』から『舞姫』まで。教材の核心に迫る読み解きへの方法と新しい世界の拡大。小・中・高から大学・大学院、そして生涯教育の現場に六十年近く携わってきた著者からの全ての教員と読書好きの読者への目から鱗のメッセージ。

定価：本体7,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 340頁  
刊行日：2023年5月15日 ISBN：978-4-8386-1007-5



新刊

秦 澄美枝 著

## 和歌でつづる 千年にきらめく皇后史

明治の後 昭憲皇太后が結び 未来へ広げる

### 日本初 皇后の和歌史

～伝統和歌から 現代 御歌 まで～

定価：本体3,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 280頁  
刊行日：2023年4月10日 ISBN：978-4-8386-1006-8



新刊

中野方子 著

## 新装版 三稜の玻璃

—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—

平安朝文学、漢文学、仏典が交叉し生み出す、複雑な光の饗宴

三稜の玻璃（プリズム）を透過した白色光は、七色の彩となって現れる。古のことばも、三稜の玻璃を通して、これまでとは異なる始原の相貌をもって輝き出すのではないか。業平、貫之、友則、伊勢などの和歌や、『伊勢物語』、『源氏物語』を中心とした平安朝文学と漢詩文、仏典という三面のジャンルが交叉し、交響し合う論文集が新装版にて登場！

定価：本体12,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 460頁  
刊行日：2023年2月10日 ISBN：978-4-8386-0777-8



最新刊

藤平 泉 著

## 新古今時代後期和歌表現の研究

歌才に富んだ秀能とその周辺を探る

藤原俊成・定家らがいわゆる「新風和歌」を形成した元久期以後に活躍した歌人 藤原秀能——。

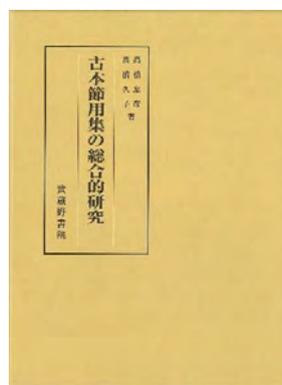
その若き才が後進歌人として歩んできた軌跡を見つめ、彼が生きた新古今時代の歌壇の動向・和歌表現・後世への影響を論ずる。

これまでの研究の中心である藤原秀能の和歌活動とそこから派生した問題について検討した論文をまとめ、新たに書き下ろしを加えた一書。



定価：本体7,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 462頁

刊行日：2023年3月31日 ISBN：978-4-8386-0780-8



最新刊

高橋忠彦  
高橋久子 編

## 古本節用集の総合的研究

本書は、既刊の『いろは分類体辞書の総合的研究』（二〇一六）と『意味分類体辞書の総合的研究』（二〇二一）と同じく、室町時代の辞書研究を主題とする論文集である。

前著二冊で論じた、いろは分類体の色葉字類、意味分類体の和名集類、そして本書のいろは分類と意味分類を兼ねた節用集類の三者を概観することで、室町時代に多様に発展した国語辞書の全体像を見渡すことができる。



定価：本体27,500円＋税 判型：A5判上製函入 上巻780頁 下巻732頁

刊行日：2023年8月4日 ISBN：978-4-8386-0781-5



最新刊

安田尚道 著

## 上代日本語研究史の再検討

上代日本語に関する橋本進吉の論に疑問を呈し、新たな考察を展開、上代日本語の“研究史”に焦点をあてた新論。

万葉仮名の二類の書き分け（上代特殊仮名遣）の存在と、それが音韻の区別に基づくことは、本居宣長・石塚龍麿などがすでに述べていることで、“橋本進吉がのちに宣長・龍麿とは無関係に独立して発見した、との説は認めがたい。橋本がはじめ、“又”に二類あり、『古事記』では子にも二類あり、としたのは、龍麿の『仮字遣奥山路』に基づくものである。宣長・龍麿が認めた『古事記』のモノ二類の区別を橋本がのちに否定したためこの区別の再確認を行なった池上禎造・有坂秀世は、その過程で『韻鏡』の利用や「音節結合の法則」などから、上代特殊仮名遣が音韻の区別に基づくことを明確にしたのであった。【本書第5章より】



定価：本体11,500円＋税 判型：A5判上製函入 344頁

刊行日：2023年5月19日 ISBN：978-4-8386-0779-2



毛利 香奈子 著 **いはでしのぶ物語の研究—王朝物語文学の終焉—**

『いはでしのぶ』という物語のなんたるかを問う

後嵯峨院時代に作られたとされるこの物語をはじめ、中世王朝物語は、『源氏物語』等の「模倣」として軽く扱われてしまうことが多い。この物語を精査し、「研究史」を問い、第一部では「見ること、似ること」のその双方の関係を捉えなおし、第二部では「手紙」という重要なアイテムから、物語の前半と後半での担う役割に注目し、第三部では「琴」と「笛」といった「楽器」や音楽からその背後にある皇統に触れ、第四部では物語の中心人物である「一品宮」について論じる。真正面から『いはでしのぶ物語』に挑んだ一書。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 320頁  
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0764-8



伊藤禎子 編著 **うつほ物語—国譲巻の世界**

『うつほ物語』「国譲」巻「らしさ」とは何か？

前半「本文鑑賞編」で、『うつほ物語』「国譲」巻を読むために読んでおきたい場面を紹介。場面の選定は「国譲」巻への繋がりを意識して、それぞれの場面には簡単なリード文を附し、読みやすくなるような現代語訳をつけた。また、各文の最後には『うつほ物語』読解のポイントを「鑑賞・説明」としてまとめたので、それぞれの場面を読む際の参考となろう。後半の「論文編」では編著者をはじめ、ともに学んだ若手研究者の論文計七編を収録、日頃の研鑽の成果を公刊する。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 298頁  
刊行日：2021年11月24日 ISBN：978-4-8386-0763-1



吉海直人 著 **源氏物語桐壺巻論**

源氏物語桐壺巻深読みのススメ

本書は、第一部 人物論Ⅰ（主要人物）・第二部 人物論Ⅱ（脇役）・第三部 表現論（特殊表現）の三部立てで構成される。源氏物語桐壺巻を立体的かつ深く読み進めることを企図した、著者三十年に亘る研究の成果である。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 324頁  
刊行日：2021年11月1日 ISBN：978-4-8386-0498-2

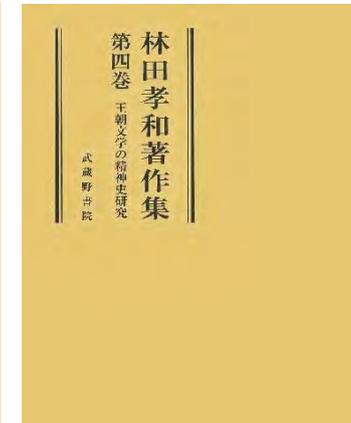
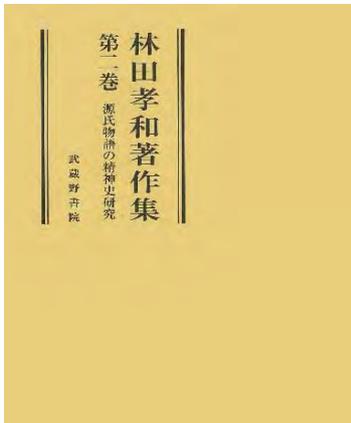
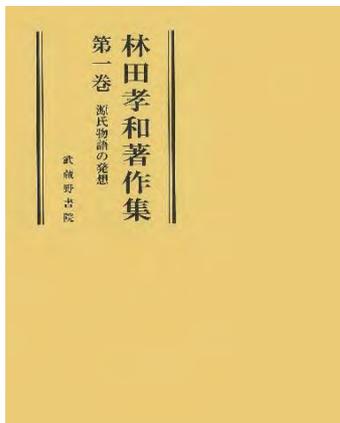
# 林田孝和著作集 全四巻

各巻定価 本体価格5700円＋税

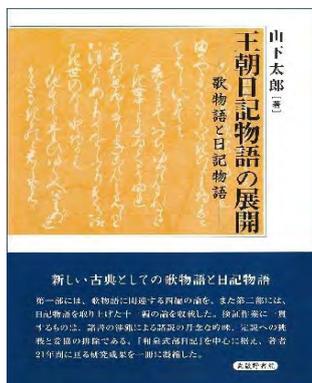
A5判上製函入 2021年5月15日刊行

林田先生 畢生のお仕事を全四巻の著作集に集約！ 圧巻の計1388頁

著者：林田孝和 編者：竹内正彦・津島昭宏・太田敦子・春日美穂・畠山大二郎



|         |     |            |      |                   |
|---------|-----|------------|------|-------------------|
| 林田孝和著作集 | 第一巻 | 源氏物語の発想    | 360頁 | 978-4-8386-0750-1 |
| 林田孝和著作集 | 第二巻 | 源氏物語の精神史研究 | 312頁 | 978-4-8386-0751-8 |
| 林田孝和著作集 | 第三巻 | 源氏物語の創意    | 360頁 | 978-4-8386-0752-5 |
| 林田孝和著作集 | 第四巻 | 王朝文学の精神史研究 | 356頁 | 978-4-8386-0753-2 |



山下太郎 著 **王朝日記物語の展開** —歌物語と日記物語—

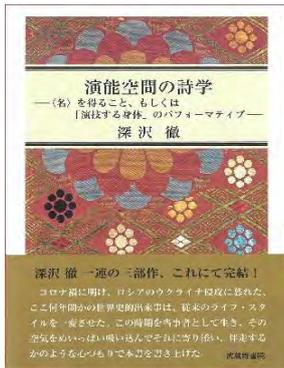
## 新しい古典としての歌物語と日記物語

第一部には、歌物語に関連する四編の論を、また第二部には、日記物語を取り上げた十一編の論を収載した。検証作業に一貫するものは、諸書の渉獵による諸説の丹念な吟味、定説への挑戦と妥協の排除である。『和泉式部日記』を中心に据え、著者21年間に亘る研究成果を一冊に凝縮した。



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁  
刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0756-3

## 深沢徹 一連の三部作、これにて完結！



**最新刊** 深沢 徹 著

### 演能空間の詩学

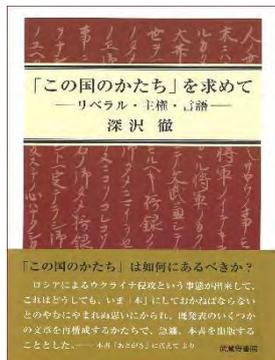
—〈名〉を得ること、もしくは  
「演技する身体」のパフォーマティブ—

深沢徹 一連の三部作、これにて完結！

コロナ禍に明け、ロシアのウクライナ進行に暮れた、ここ何年間かの世界史的出来事は、従来のライフ・スタイルを一変させた。この時期を当事者とし生き、その空気をめいっぱい吸い込んでそれに寄り添い、伴走するかのような心づもりで本書を書き上げた。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 326頁  
刊行日：2023年3月20日 ISBN：978-4-8386-1005-1



**新刊** 深沢 徹 著

### 「この国のかたち」を求めて

—リベラル・主権・言語—

「この国のかたち」は如何にあるべきか？

ロシアによるウクライナ侵攻という事態が出来て、これはどうしても、いま「本」にしておかねばならないとのやむにやまれぬ思いにかられ、既発表のいくつかの文章を再構成するかたちで、急遽、本書を出版することとした。  
——本書「あとがき」に代えてより



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 222頁  
刊行日：2022年5月21日 ISBN：978-4-8386-0500-2



深沢 徹 著

### 日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？

—リベラル・アーツの可能性に向けて—

「古典」とは何かについての根源的な問いかけ

「古典」は「古典」として既にあるのではない。それを「古典」として維持して、継承していく人びとの、たゆみない努力なくして「古典」は「古典」たりえない。この自明の事柄、いわゆる〈リベラル・アーツ〉の営みとの関連で明らかにしていきたい。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 276頁  
刊行日：2021年4月23日 ISBN：978-4-8386-0493-7

## 廣田收 源氏物語研究三部作！



### 廣田 收著 表現としての源氏物語

#### 平安京の物語の表現とは何か

平安京の物語とは『源氏物語』をひとつの極とする一方、(互いに影響関係の希薄な)『宇治大納言物語』をもうひとつの極とするであろう。『枕草子』が興味を示し、記録している物語の中で(『宇津保物語』や『住吉物語』等を除き)群小物語がひとつの核をなすまでに至らないとすれば、平安京の物語は、その二極を含む、緩やかな楕円的な世界を意味するであろう。そのように考えると、本書において、説話としての『宇治拾遺物語』『宇治大納言物語』をも対象とすることが出来る。つまり、本書は「表現としての源氏物語」と題するが、内容からは、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『宇治拾遺物語』などを、かろうじて「平安京の物語」として捉えることが見通せるのではないかという目論見を隠している。



定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 602頁  
刊行日：2021年6月23日 ISBN：978-4-8386-0755-6



### 廣田 收著 古代物語としての源氏物語

#### 『源氏物語』を「古代文学として読む」という立場

「研究として『源氏物語』をどのように読むのか」というとき、こう読まなければならないという決まった読み方が最初からあるはずもないが、単に恣意的な読みを披露し、散漫な感想を述べるだけでは『源氏物語』の研究としての読みに関感は得られないであろう。なぜなら、私的な読み思わず知らず現代のもしくは近代的な基準による解釈が紛れ込む可能性があるからである。『源氏物語』が「読解至上主義」に陥ることを非難する向きもあるが、その危険性を回避し、私的な読みの暴走を抑制できるのは、注釈と隣接科学の成果を参照することであることは言うを俟たない。

ここに私の立場表明がある。つまり『源氏物語』を「古代物語として読む」という立場である。(本書「まえがき」より抜粋)



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 368頁  
刊行日：2018年8月25日 ISBN：978-4-8386-0712-9



### 廣田 收著 文学史としての源氏物語

#### 紫式部という存在を睨み据えつつ…

わが国文学研究のめざすところは、日本的な精神や心性 mentalityの解明だけではないし、逆に普遍的な元型arche-typeの発見だけでもない。まさに『源氏物語』がどのような仕掛けや仕組みによって構築された本文であるかを明らかにすることを目的とする、と言挙げすればよいのではないか。その目的と方法こそ、『源氏物語』の本文そのものが「文学史としての『源氏物語』」であると捉えることに他ならない。ひとことで言えば、紫式部という存在を睨み据えつつ、古代の古代、古代の近代との併存する本文としての『源氏物語』を、基層と表層との重層性において捉えるという目論見である。(はしがきより)



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁  
刊行日：2014年9月26日 ISBN：978-4-8386-0276-6



最新刊

大倉 比呂志 著

『風に紅葉』注解

『風に紅葉』をより深く読み解く

本書は『風に紅葉』を長年研究してきた著者による注解である。注釈を付すにあたり、宮内庁書陵部の桂宮本を底本にし、本文には濁点、句読点を付し、仮名遣いは歴史的仮名遣いに拠った。いくつかの読み方が想定される語句は、底本の仮名遣いに従い振り仮名を施した。明解な注解に、丁寧な語釈、わかりやすい訳文、必要に応じて付した考察により『風に紅葉』をより深く読み解く。



定価：本体9,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 280頁  
刊行日：2023年3月3日 ISBN：978-4-8386-1004-4



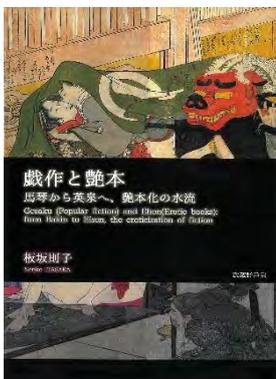
大倉 比呂志 著 風に紅葉考 一百花繚乱する〈性〉への目差し―

風に紅葉の散る時は……

中世王朝物語に属する『いはでしのぶ』や『我身にたどる姫君』には、密通という〈性〉に関わる描写が溢れている。はたして、『風に紅葉』ではそれがどのように語られているのだろうか。本書七編の論文をもとにし、その実体を照射する。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 190頁  
刊行日：2018年1月25日 ISBN：978-4-8386-0476-0



最新刊

板坂則子 著

戯作と艶本

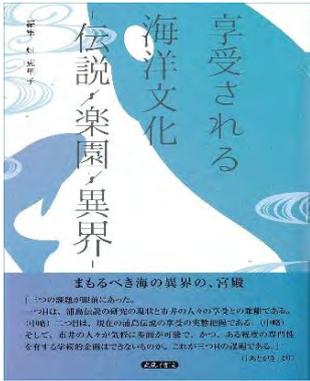
馬琴から英泉へ、艶本化の水流

艶本には職人としての浮世絵師と彫師、摺師のプライドが惜しげもなく示されている。多くは戯作者が担当する附文では性が笑いと結びついて奇想天外の展開が描かれている。

まずは世の中に一番多く出回ったのはどのような艶本か、という素朴な問いから、艶書往来を書誌と内容の歴史的変遷から見ていった。次いで、馬琴に関わる艶本を丁寧に読み解くことを目指した。巻頭カラーに『艶本多歌羅久良』『春窓秘辞』をたっぷり掲載。また、本書には各所蔵機関や御所蔵者のご協力をいただき、著者架蔵本を含め、200を超える図版を掲載した。艶本を楽しみ、それを通しての人流を読み解く、艶本を紹介する研究書。



定価：本体17,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 468頁  
刊行日：2023年2月10日 ISBN：978-4-8386-0775-4



新刊

畑 恵里子 編

## 享受される海洋文化

—伝説・楽園・異界—

### まもるべき海の異界の、宮殿

「三つの課題が眼前にあった。一つ目は、浦島伝説の研究の現状と市井の人々の享受と乖離である。(中略)二つ目は、現在の浦島伝説の享受の実態把握である。(中略)そして、市井の人々が気軽に参画が可能で、かつ、ある程度の専門性を有する学術的企画はできないものか。これが三つ目の課題である。」

(「あとがき」より)



定価：本体1,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 184頁  
刊行日：2023年1月31日 ISBN：978-4-8386-1003-7



新刊

韓 正美 著

## 変貌する日本の神々

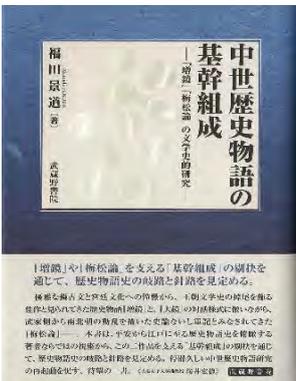
—古代・中世文芸を中心に—

本書は、日本古典文学研究と日本宗教研究という学際的立場に立って、日本の古代・平安・中世の文芸テキストの中で神々の言説がどのように変貌しているかを問い、それぞれのテキストの中で神々が具体的にはどのように描写されているのか、また、個々のテキストにおける神々の役割と位置はどのようなものかを考察する。

具体的な研究方法として、全体的・通時的な視点から文芸テキストに現れた、古代から中世まで持続・変貌する神々の様相を解明することに焦点を合わせ、その中でも特に、その変貌の様相が確認できる資料を収集・集合・整理し、これまで行われてきた研究成果を検討し、これに基づいて〈住吉神の変貌〉〈賀茂神の変貌〉〈伊勢神の変貌〉〈八幡神の変貌〉〈春日神の変貌〉〈天神の変貌〉の六編に分けて考察する。



定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 514頁  
刊行日：2022年12月21日 ISBN：978-4-8386-0772-3



新刊

福田景道 著

## 中世歴史物語の基幹組成

—『増鏡』『梅松論』の文学史的研究—

『増鏡』や『梅松論』を支える「基幹組成」の剔抉を通じて、歴史物語史の岐路と針路を見定める。

優雅な擬古文と宮廷文化への憧憬から、王朝文学史の掉尾を飾る佳作と見られてきた歴史物語『増鏡』と、『大鏡』の対話様式に倣いながら、武家側から南北朝の動乱を描いた史論ないし軍記とみなされてきた『梅松論』。本書は、平安から江戸に至る歴史物語史を俯瞰する著者ならではの視座から、この二作品を支える「基幹組成」の剔抉を通じて、歴史物語史の岐路と針路を見定める。停滞久しい中世歴史物語研究の再起動を促す、待望の一書。



定価：本体15,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 454頁  
刊行日：2022年11月1日 ISBN：978-4-8386-0770-9



新刊

小井土守敏編

曾我物語 流布本

敵討ちのために綺羅星のごとく駆け抜けた兄弟の物語

幼くして父を失った兄弟が、18年間の苦節の末にその敵討ちを遂げた顛末を描く『曾我物語』。先人に最も広く読まれた流布本を底本とし、すべての所載挿絵とともに、読みやすい校訂本文にしてここに復活。人物相関図・年表・地図等の資料も充実。



定価：本体2,300円＋税 判型：A5変型判並製カバー装 496頁  
刊行日：2022年9月30日 ISBN：978-4-8386-0658-0



新刊

野中哲照 著

那須与一の謎を解く

平家物語でも有名な「扇的」の名場面。その名場面の主役那須与一の名前は知っていても、那須与一がどんな人物か、実は良く知られていない。そんな那須与一の謎を探る。内容的には学術書ですが、これを一般の方々や学生さんにも読んでいただけるよう、90枚近くの図版（写真、イラスト、地図、図解など）を掲載しました。



定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 322頁  
刊行日：2022年5月27日 ISBN：978-4-8386-0499-9



新刊

飯泉健司 著

古事記全講義—意図と文学

自由気ままに『古事記』を読んでみませんか？

本書は、約20年間の永きに亘って開催された古事記講読の記録を基に、それを85の章段に分け、さらに冗漫になることを避けるため、基本的に一章段を見開き4頁にまとめたものである。また、適所に詳細な系図や表を効果的に配置することによって、読解の便をはかった。



定価：本体2,500円＋税 判型：四六判並製カバー装 406頁  
刊行日：2022年6月28日 ISBN：978-4-8386-1001-3

